

Title	角田睦雄著 新労働組合運動
Sub Title	
Author	野村, 兼太郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.2 (1922. 2) ,p.289(139)- 290(140)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19220201-0139

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

と共に現實の事實を基礎として個々の難問題を一つ一つに解決するの勞を避けてはならぬのである。さて以上は文化向上の條件たる富の豊富なる生産とその合理的なる分配に關しての事であるが、猶ほ此外に残るものは、如何にして職業生活其者をして人格の向上を妨げぬものたらしむる事を得べきかの問題である。而して此問題を解決しようとしたものに過去に於ては概ね失敗に歸した勞働者生産組合運動、近年に於ては未だ將來を斷定すべからざるギルド社會主義サンヂカリズムがある。上田博士は此運動に充分の同情を持って居る。併し博士の現經濟組織に關する智識は、その輕々に此運動の將來を樂觀すること許さないのである。故に曰く「苟も自主獨立の精神的價値を體驗し得るものは生産組合を無用の空想として排斥するを許さぬ。而かも近世の生産組織の複雑なるを熟知するものはギルドの高遠なる理想に眩せられて其實行の如何に困難なるかを忘れては居られない」と。(三)

七頁) 博士は頻りに生産者專制の不當を論ずるエツプの説に多くの眞理あることを許すと共にギルドの成功が一般勞働者の自律自制的能力に俟つどころ甚だ大なること認めるのである。(七二頁其他)

本書の既記の如き小冊であつて、恐らく僅かに社會改造に關する上田博士の意見の一小部分を收録するに過ぎぬものであらう。而かも此斷片からさへも吾々の學ぶところは甚だ大きいのである。加ふるに經濟學上の議論に無用なる美辭麗句を妄用する作家橫行の今日、上田博士の行論の態度の平靜と、その筆致の平淡簡素とは讀者に清新の感を與へることが實に多大である。此一事を以てしても本書は時弊を矯める上に貢献すること甚だ大なるものと云はなければならぬ(小泉信三)

角田睦雄著「新勞働組合運動」

下出書店發行
四六版一八三頁
定價一圓五十錢

本書は角田氏が義塾理財科の卒業論文として小泉教授指導の下に起稿せられたものであつて、英國に於ける最近の勞働組合運動を説明したものである。全卷を二部に分けて、第一篇を新組合主義發生以前の勞働運動と題し新組合主義が如何なる原因に依つて、發生したのか又如何なる形體を以つて、發生したのかと云ふ問題に答へる爲めに筆を自由主義の崩壊に起し、勞働組合の次第に社會主義化された徑路を説明して居る。第二篇は題して新組合主義の諸運動となし、英國勞働運動がサンヂカリズムの影響を受けて生じた最近の傾向を示して居る。即ち「政治運動の幻影に破れた勞働者が行く可き道は、再

び彼等の直接行動に復歸することであつた。かくして一九一〇年からストライキは所在に惹起した。一九一〇——一二年の勞働不安は茲に其序幕を開いた。此勞働不安の内から起つたのが新らしき精神を以て表はれた革命的勞働組合主義、それが氏の云はんと欲する新組合主義である。(八二頁)従つて最も多くの頁をギルド・サンヂカリズムの爲めに割いて居る。而して氏は是を評して「洵に意識せるギルドマンは少數である。然しながらギルド社會主義の思想は今日其理論に於ても又實際に於ても英國勞働運動の主流をなして居る事は疑ひもなく事實である。然りそは英國勞働運動の指導的精神である」と。(一八〇頁)

勿論本書は英國勞働運動最近の傾向を十分に記述して居るものと云ふことは出来ない。殊に吾人にとつて最も悲しむべきは本書の著者が本書刊行に先だつて、すでに不歸の客となられ、將來に於いて是が補正を期待し得られないこと

である。著者の正確簡明なる筆致と其の眞摯なる努力とは本書を繙く者の何人も知悉し得るところである。恐らく著者に假すに齡を以つてせば、必ずや其の研究の成果として吾人の前に更に一層大なるものを提供したことであらう。若くして死する程世に傷ましいものはない。然し本書の價值はすでに小泉教授が其の序文に述べて居るやうに、この短小の紙幅内によく英吉利労働組合運動最近の傾向と其由来とを、理論實際の兩方面に亘つて甚だ正確簡明に敘述して居る點に於て、慥かに一部讀書界の満足を買ひ得るものと信ずる。(序)吾人は英國労働運動の大綱を知らんと欲する者に本書の一讀を勧めらる。

(野村兼太郎)

前號(第十六卷)目次(大正十一年一月號)

論 說	労働組合に關する諸問題(一)	堀江 歸一
	日本に於スけるソリダリティの思想	瀧本 誠一
	聖トーマの奴隸論	高橋誠一郎
雜 錄	米國に於ける健康保險運動(一)	園 乾治
	ベルンシュタインとマルクス主義	金原賢之助
	高及楊に關する考證	李 永 霖
	羊毛工業の發達とMerchant Adventurers(一)	高木 壽一
	哲學と社會科學との關係	勝本 鼎一
	萬國中央銀行の提案	鈴木 良雄
新刊紹介	原口亮平解説はーきんす氏工場會計	三邊 金藏
	海運に關する米國近刊書二種	増井 幸雄
	小泉信三著「社會組織の經濟理論的批評」	野村兼太郎
	野村兼太郎著「社會生活と理想哲學」	加田 哲二

●一冊定價金五拾錢
●半年定價金貳圓四拾錢
●郵税金壹錢五分
●郵 稅 共

●編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
●營業に關する用件は發賣元宛
●原稿締切期日は發行の前月十日限

大正十一年二月廿一日印刷
大正十一年二月一日發行
行 每月一回一日發行

三田學會雜誌
禁 轉 載
第三十六卷 第二號
編輯者 江 田 範 保
發行所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
印刷者 金子 鐵 五 郎
印刷所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
金 子 活 版 所

發 賣 元 國 文 堂 書 店
東京市芝區三田貳丁目壹番地
電話高輪一三七番
振替東京四六九九九番
●尙は本誌は全國各市雜誌店にて販賣す

發行所 東京芝三田 慶應義塾内 理財學會